

令和7年度 第2号

2025.11.20

# 子ども未来サポート CoCoMo だより

上越市立教育センター 教育支援室

## 「今年はとってもラッキーなんです」

子ども未来サポート CoCoMo 指導員 遠藤 和英

CoCoMoに通室している中学生から標記の言葉が聞かれました。その中学生は、今年度、自校の支援室の変化を喜んでいました。具体的には次のような変化があったそうです。

- 支援室が普通教室と同じ並びであるのではなく、多くの生徒の視線が気にならない場所に移動した
- 支援室用の担当職員時間割が前の週に配付されるようになった
- 時間割を見て相談しやすい先生が担当のときに時間を合わせて通室できるようになった
- 配当された先生の教科に合わせて先生や友達と一緒に活動できる時間がある

いずれも、学校の先生方がその生徒の顔を具体的に思い浮かべ、あるいは希望を聞いて話し合いながら改善してくださったのだと思います。

結果として、この中学生は周りの視線を過度に気にすることなく、先生がいないかもという不安もなくなり支援室に通うことができるようになりました。あるときには、話しやすい先生がいる時間に合わせて、またあるときには体育の先生とバドミントンをすることを楽しみにして支援室に行くという使い方もできるようになりました。これらの学校の配慮が、この中学生にとって支援室が今まで以上に安心で自分らしさを発揮できる場となったため、「今年はとってもラッキー」という言葉につながったのだと思います。現在この中学生は、ほとんどの時間を学校の支援室で過ごしながら学校行事等にも参加しています。CoCoMoにも、体育祭の代休や各種大会のための午前放課のときなど、学校の活動に支障がない範囲で顔を見せてくれ、その表情はとても充実しています。CoCoMoは、学校復帰だけを目的にしているわけではないのですが、今回のように学校に通う喜びを感じ、再び学校に通える子どもを目にするのは、我が事のように喜びを感じます。

CoCoMoには、様々な理由で学校に行けない・行かない子どもが通室しています。CoCoMoの主目的は、子どもたちが自信を回復し、将来自立していく力を身に付けていく支援をすることです。そのために、通室生にとって「安全・安心な居場所であること」と「なんらかの成長ができる場であること」を大切にしています。ただ、この2つのことを維持するためには、「今までどおり」ではなく、通室生に合わせて環境や活動を絶えず見直していくことが重要です。私たちCoCoMoも今回の中学校のように、生徒の思いや考えを汲み取りつつ、互いに話し合い、折り合いを付けながら一緒に環境を整備し、活動を創り出していかなくてはならないと改めて感じた出来事でした。

# CoCoMo 南の紹介

CoCoMo 南は、大手町交差点の近く「シルバープラザ上越」の4階にあります。4階のフロアはCoCoMo南の専有活動場所となっており、学習室・活動室・相談室・事務室等、ゆとりのある配置がなされています。窓からは、高田城址公園の四季折々の美しさ（春：満開の桜、夏：朝の蓮の花、秋：色づいた木々、冬：雪景色など）や、米山・菱ヶ岳・関田山脈・斑尾山・飯綱山・黒姫山・妙高山などの山々の眺望を楽しむことができます。



当室には、現在小学1年生から中学3年生までの23名が在籍しています。安心して過ごせる居場所としての教室を大切にしながら、自主的な学習や諸活動を通して、学校復帰や社会的自立を目指しています。

通室は、まず教室の様子を見学して、学習や諸活動の説明を受けながら、自分の通室をイメージするところから始まります。一人一人が自分の心身の調子に合わせて、通室する日や滞在時間の見通しを持ち、学習や諸活動（UNO、トランプ、ジェンガ、アイロンビーズ、折り紙、卓球、スライムづくりなど）を行います。通室する日は自分でその日の滞在時間を決め、指導員や他の通室生とのかかわりも増やしていきます。学習や諸活動の計画・記録・振り返り表の活用を通して、一人一人の自己肯定感や自信・意欲の向上を図っています。

通室生の中には、今まで理解できなかった学習内容に指導員と一緒に取り組み、理解できるようになった児童生徒もいます。また、学校と連絡を取り、リモート授業に積極的に取り組んでいる児童生徒、自分の趣味や興味のある活動に取り組む児童生徒、他校や他学年の通室生との交流を通じ、コミュニケーション能力を高め、楽しく生活を送れるようになった児童生徒もいます。各自が目的をもって通室し、それぞれの課題に取り組んでいます。

# CoCoMo 北の紹介

CoCoMo 北は直江津駅前にある「直江津学びの交流館」の1階で開室しています。交通の便もよく、通室方法は徒歩、電車、バス、保護者の送迎など様々です。現在、CoCoMo 北には現在、小学2年生から中学3年生までの**37名**が在籍しています。CoCoMo 北の活動を3つの側面から紹介します。

## ◎学習

学習は、各自がワークやプリントを持参し、自分のペースで進めています。学校の授業の進度に合わせて学習を進める子どももいれば、自分の得意の教科を中心に学習を進める子、学校で学習しなかったところを取り戻そうとする子など様々です。分からないところがあれば、指導員に声をかけて支援を受けながら進めています。指導員と一対一で支援を受けられるので、心理的負担は少なく、安心して学習を進める環境が整っています。こちらの説明に子どもたちが納得し笑顔を見せたときは、指導員もやりがいを感じています。また、自分から向上しようとする子どもの能力の伸びは大きく、やはりやる気が何より大切だと再確認させられることも多いです。

この他にも、学校の定期テストや実力テストを受ける子どももいます。学校の先生と連絡を取り合ってテスト用紙をやり取りし、子どもが望む環境の中でテストを受けることができます。また、上越教育大学の学生ボランティアも様々な活動支援や学習支援にも加わり、子どもたちの楽しい学びに一役買っています。(テスト実施のご希望につきましては所属校の先生からのご連絡をお待ちしています。)



## ◎コミュニケーション

友達との触れ合いを求めて通ってくる子もいます。CoCoMo 北には、コミュニケーションを促すような楽しいメニューがあります。通室生同士で楽しむボードゲーム、カードゲーム、テーブルゲームは大人気です。お互いに誘い合いながら、コミュニケーションを深めています。また、ときにはテーブルを囲んでのクイズ大会、女子トークなど、会話そのもので盛り上がることもあります。そして何より「お早う!」「お帰り~」「一緒にやろう!」などという自然な会話と温かい雰囲気があります。この環境の中で、通室生のコミュニケーション力は自然と高まっていきます。ただ、一人で活動したい人や学習中の仲間はそっとしておくのが約束です。一人でいたいという願いを周りが受け入れるのも CoCoMo 北のよいところです。

## ◎お楽しみの活動

この他にも、不定期にイベント的な活動も実施しています。今年は、パンケーキ大作戦・水風船合戦・海散歩・水族館見学・体育館占領大作戦・ハロウィンパーティー等を企画し、子どもたちに楽しんでもらっています。作業やゲームの中で会話を交わし、笑い、大いに盛り上がります。自己を表現しながらも相手を尊重し、社会性を少しずつ高めている様子は大変嬉しく、そっと見守っています。



## ～最後に～

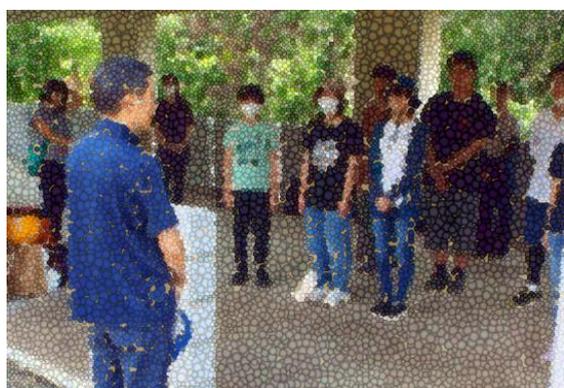
CoCoMo 北では「あわてない」「急がない」「頑張り過ぎない」を合言葉に “ここも” あなたの居場所♪だよ、いつも開いているから、来たいときはいつでもどうぞ…というメッセージを子どもたちに伝えています。

# 教室から飛び出して自然と遊ぼう！

## <2025 秋のイベント 教室外体験学習>

恒例となった「秋のイベント教室外体験学習」を9月12日(金)に国立妙高青少年自然の家で実施しました。心配された天候も野外炊飯と会食までは何とか持ちこたえてくれました。雨が降ってきた午後の自由時間は、今年度新設された東屋の中で、遊びを工夫しながら有意義に過ごすことができました。通室生からは、役割を分担し仲間と協力することができた充実感、みんなで楽しく過ごすことができた満足感が伝わってきました。活動を通じて自己肯定感を大いに高めることができました。子どもたちの振り返りからは、自然の家の職員の方、学生ボランティアの皆さんへの感謝の気持ち、仲間と協力することができた充実感、みんなで楽しく過ごし良い思い出となった満足感に満ち溢れていました。

今年も支援してくださった上越教育大学の学生ボランティアの皆様、子どもたちが安心して活動に取り組めるようご配慮くださった自然の家の職員の皆様に感謝！です。



開会式での話を聞く参加者



見事に皮をむく野菜担当者



ご飯の運搬



手際よく火を起こすかまど担当者



おいしそうなカレー



手際よく片付けるための一工夫



完成したカレーに舌鼓を打つ参加者



東屋で雨を気にせず遊ぶ参加者